

平成 28 年度 第 4 回 児童福祉専門分科会 議事要旨

- 1 日 時 平成 28 年 12 月 27 日(火) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
- 2 場 所 城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階 第 1・2 研修室
- 3 出席者 (委員)津富委員(会長)、浅井委員、稲垣委員、今村委員、太田嶋委員、大橋委員、垣見委員、是永委員、鈴木委員、徳浪委員、戸崎委員、永田委員、錦織委員、長谷川委員、平岡委員、水上委員、宮下委員、望月委員
(欠席)酒井田委員、和田委員
(事務局)平松子ども未来局長、深澤子ども未来局次長、山田参与兼子ども未来課長、松永青少年育成課長、伏見子ども若者相談担当課長、安本参与兼幼保支援課長、糠谷参与兼こども園課長、秋本参与兼子ども家庭課長、荒田児童相談所長、吉永障害者福祉課長、高津参与兼教育総務課長、川島学校教育課長、他事務担当者
- 4 傍聴者 5 人
- 5 議題 (1)「静岡市子ども・子育て支援プラン」平成 27 年度進捗状況について
- 6 報告 (1)静岡市立こども園の配置適正化 第一次対象園について
(2)「子育てしやすいまち静岡市」PR 動画の作成について
(3)「結婚・婚活アワード」自治体 市部門の表彰について
- 7 子ども子育てについて意見交換

8 会議内容

■議題 1 「静岡市子ども・子育て支援プラン」平成 27 年度進捗状況について

○宮下委員 (質問)

地域子育て拠点事業とあるが、幼稚園協会と市で長年やっている子育て広場は、この数の中に入っていないのか。

⇒子ども未来課

事業の種類が違うため、その中には入っていない。

○宮下委員 (質問)

静岡市では 19 園で、1 年に平均 7 回から 8 回やって、非常に大人数で好評を博しているが、どこに入っているのか。

⇒子ども未来課

子育て広場については、資料1の1、29ページ186番に掲載している。

○宮下委員（質問）

一時預かり事業は、幼稚園利用と書いてあるが、認定こども園になった私立幼稚園なのかあくまでも私立幼稚園として存続している私立幼稚園の数なのか。

⇒幼保支援課

幼稚園利用については、私立幼稚園において、県の補助を受けて一時預かり事業を実施した分に、認定こども園における幼稚園型の一時預かり事業を足した数字になる。

○宮下委員（質問）

私立幼稚園の数もこの中に入っているということか。

⇒幼保支援課

私立幼稚園が県の補助金を受けて実施している数字を記載している。

○宮下委員（質問）

県の補助金を受けていない幼稚園は結構あるがそういうのは。

⇒幼保支援課

県から提供された数字を使っているため含まれないと思われる。

○宮下委員（質問）

どういう形でやっているのか調べて、この数字の中に入れれば、もっと幼稚園は子育て支援に力を入れていることがわかると思う。

⇒幼保支援課

次回からは幼稚園に調査をさせていただいて数字を調べたい。

○是永委員（質問）

22番、放課後子ども教室推進事業だが、31年度に86校を目標にしていて、徐々に増える形になっているが、これはスタッフの確保が難しいという事が理由か。今後、増やすスケジュールで分かっていたら教えていただきたい。

⇒教育総務課

資料2の1ページに載っている表だが、一番下の一体型というところで、平成27年度は22校で子ども教室を実施した。一体型というのが児童クラブと同一校で行う数になる。平成31年度で86校を目指してはいるが、スタッフの協力がなくては出来ないため、努力はしているが、計画よりも数字が下回る状況である。平成28年度は、合計で36校になっているが大幅に数字がダウンしてしまう見込み。

○是永委員（質問）

来年増える学校は分からないのか。

⇒教育総務課

来年は8校を予定しているが、校名等については申し上げることはできない。

○長谷川委員（質問）

一時預かりの件だが、幼稚園型の一時的預かり事業というのは、保育所や認定こども園の一時的預かり事業とは意味合いがかなり違う。幼稚園というのは、教育標準時間のあとの預かりの延長保育のことを意味しているのだから、一般の方が幼稚園でも一時預かりしてくれるのかと誤解をしてしまう。ここをもう少し分かりやすいように表記した方が良いのではないか。

幼稚園就園奨励費補助金交付事業だが、平成27年の取組内容と成果で、「入園料・保育料を減免する幼稚園に対し補助金を交付する。補助金交付 46 法人。」となっているが、実際は、法人を通じて保護者に還付しているお金なので、この部分の書き方を「在園児の保護者に対して補助金を還付する」などとしていただきたい。

⇒幼保支援課

一時預かり事業についてはなるべく誤解のないように表記したい。幼稚園就園奨励費補助金交付事業については、制度としては減免として捉えており、この表記になる。

○長谷川委員（意見）

市の見解も一理あるが、誤解して幼稚園が補助金をもらっているのかと誤解してしまう可能性もあり、分かりやすく表記していただけたらありがたい。

○平岡委員（質問）

静岡市は、里親委託率が全国的にも高く注目されているが、委託する前の色々な支援が大変重要で、手のかかる仕事だと思う。委託に係る現状の課題や目標を教えてください。2つ目は、資料1の2、2ページ目の(6)養育支援訪問事業その他要保護児童等支援に資する事業だが、この事業の課題を教えてください。

⇒児童相談所

はじめに里親に関する課題についてだが、まず里親委託率という数は、社会的養護が必要な措置をしている中で、里親に委託している児童の割合のことをいう。静岡市では46.9%という数になる。今後の課題だが、静岡市児童相談所が出来てから10年以上が経ち、里親の年齢が高齢化してきていること。平均年齢54歳で、里親制度そのものを地域の皆さんにもう一度正確に理解していただいて、少しでも里親を増やしたい。今年、市民意識調査では、里親という言葉は知っているが制度を知らないという声が半数以上あった。静岡市では、51人の子どもが里親宅にいと申したが、世帯数で言うと50世帯弱。今年度、児童福祉法の改正があり、社会的養護が必要な子をなるべく家庭的な環境のなかで養育するという内容。里親自身の質も向上していかななくてはならないことなどを課題として考えている。そのために、静岡市では、里親支援センターの他に、里親の支援を他の児童相談所より厚く人員を配置して対応している。

⇒子ども家庭課

資料1-2、養育支援訪問事業については、養育支援が特に必要だと感じた子育て支援家庭に対して行うもの。対象は10代未婚の若年妊婦や高齢で、初産の妊婦、支援者が周りにいなくて不安を抱えている方等の家庭に対して、母子健康手帳の交付時の面接で支援が必要と思われた場合に訪問するもの。どういう支援が必要かというプランを作成し、支援をしている。件数としては少ないが、実際に関わっている期間は何か月にもわたる。

○平岡委員（質問）

この実績でニーズが足りている状況なのか。年間30世帯は単純に少ないと感じた。

⇒子ども家庭課

支援の家庭が何らかの支援をしていくことが不可欠であり、支援がなければリスクがあるということになってくるため、対象となる世帯はそれほど多くない。現在、要望のあった件数は対応できている。今年度は多少数が増えてきているので、件数によっては体制を強化していく必要がある。

○水上委員（質問）

この報告書で進捗状況がAからDに評価されているが、Aがポジティブな意見を持つ場合とネガティブな意見を持つ場合があると思う。AからDをどうやって判断すれば良いのか見ている側からわかりにくい。この資料は、今後、何の指標として使われていくのか。2点目は、エンジェルプロジェクトで評価についてもざっくりとしか書かれていないこと。約1000万円の税金を使って疑問に思うところがある。皆さんの評価はどうか聞きたい。

⇒子ども未来課

このプランが、次世代育成支援対策推進法に基づく市町村行動計画ということで成り立ちがあり、Aだから良いということではない。あくまで目標値に対する1年の進捗評価。表現が誤解を生む可能性はあるが、進捗状況として捉えていただきたい。評価や進捗状況によって、平成31年度までのひとつの目安として、今後進めていく。

⇒青少年育成課

エンジェルプロジェクトの約1000万円の内訳は、国が少子化対策で結婚支援事業を大きく取り上げた際、昨年、全額補助で静岡そこ知りという番組と、静岡の地方タウン誌womoに連載して載せたという広報経費になる。婚活イベントはほとんど本人負担。市が払うのは、司会者などに充てるものだけ。ほとんどが広報経費に使われた。

○津富委員（質問）

具体的に何カップル成立したのか。

⇒青少年育成課

開催件数は67件、カップル成立は261組、結婚・婚約したのが9組、子どもが生まれたカップルもいる。

○太田嶋委員（質問）

エンジェルプロジェクトについてあまり期待していなかったが、表彰されたというニュースで静岡市のイメージがさらにプラスになり、結婚していくカップル・子どもが増えていくのであれば、この金額は安いと感じる。

2点目は、子育て優待カード。利用したときに何らかの割引等があるが、広報が必要だと思っているので、積極的に啓発活動をして、静岡市の事業所はこんなにたくさん協賛して、子育てに優しいと全国区に広まるといいと思う。この加盟店の増加に向けて周知・啓発方法を検討となっているが具体的にどこまで進んでいるのか。

⇒子ども未来課

子育て優待カードは県の事業で、市も協賛という形でやっている。周知についてはホームページなどで考えているが、具体的な方法は未定。また、意見を踏まえて効果的なものがあれば進めていきたい。

○太田嶋委員（質問）

静岡市としてうまく活用して広めていくのは大事だと思う。例えば、子育て支援センターや各保育園、幼稚園など、一般の人も分かりやすいように目で見える資料としていくつかの場

所に配布したらどうか。

⇒子ども未来課

大変参考になった。公共施設だけではなく保育園、幼稚園、認定こども園等、お子さんが関わる施設、事業等で周知を図っていきたい。

○垣見委員（意見）

静岡子育て優待カード事業について。マークが店に貼ってあるが、マークがもっと大きいといいと思う。加盟店が増えれば利用率も上がるだろうし子育てのしやすいまちというイメージがつくと思う。

○錦織委員（質問）

資料1-2で新生児訪問が95.5%とあるが、もっと100%に近いと思っていた。これを希望しない人は、2人目、3人目の方が多いのか。

⇒子ども家庭課

新生児訪問を利用されない方は、母子手帳は静岡でもらったがその後転院するとか、里帰り出産をするとか、2人目、3人目の場合、必要ないというケースもある。葉書が来ない場合には、保健師が繰り返し連絡を取り、訪問をするようにしている。それでも連絡が取れない場合は、赤ちゃん訪問で訪ねるといった形を取っている。実際に確認できる家庭には何らかの繋がりを取るようになっている。

○錦織委員（質問）

1人目と2人目で年が離れていると、制度がすごく変わっていることがある。里帰り出産した人等に静岡市のサービスを周知するのは大丈夫なのか。

⇒子ども家庭課

サービスの内容は、母子手帳交付の際に渡し、こんにちは赤ちゃんの時にも冊子などで案内をする。その後、4か月検診、10か月検診、1歳半検診のときも病院等にチラシやポスターを置き、できるだけ伝えするようにしている。

○浅井委員（質問）

資料1-1、163番にフッ素洗口とあるが、保育園など実施率が高くてたくさんやっているが、小学校は87校中4校と少ないのが気になる。評価はAになっているが、これは保育園や幼稚園だけでやればよいという考えなのか。

⇒子ども未来課

所管が健康づくり推進課になるが、本日、出席していないため、いただいた疑問点に関して事務局から所管課に伝え、回答については、書面などで委員の皆様にお伝えする。

○水上委員（質問）

最近、フッ素がむし歯を防止と聞くが、支援センターなどではかみ合わせの方が大きな問題になっているようなので、新しい情報も含めて対策を取ってほしい。

○是永委員（質問）

資料1-2の13番のいちばん最後のところで、新規にできた認定こども園に実際に行って指導や助言を行うのが100%で52回とあるが、行くことによって洗い出された問題のなかに健康等の問題があるのか。

⇒子ども未来課

これは、例えば、認定こども園に移行した幼稚園や、新たに小規模保育事業を始めた施設等全てに訪問させていただく事業。問題点としては、これまで長く保育事業をやってこられた方が、新たに認可になった施設で、今までとやり方を変えた方がいいのではないかというものがいくつかあったこと。市の監査が入るといように捉えている方がいるように見受けられ、それについては、これから実際に訪問している職員との全体会議で訪問の仕方やアドバイスの仕方の改善に努めたい。

○戸崎委員（質問）

資料1-2だが、利用者支援事業の子育て世代包括支援センターが、平成27年度から開設されていたが、どの程度の利用者がある、どの程度の内容のものか存じない方が多い。電話したくても16時までなので、なかなかしにくく、保育コーディネーターや子ども未来サポーターも、人数は増えてきたが、なかなか活動が見えてこないのが教えて欲しい。

⇒子ども家庭課

子育て世代包括支援センターだが、昨年11月に葵区健康支援課内に開設した。職員は保健師1名と助産師1名の計2名の配置。内容としては、電話での相談、窓口での相談、訪問による支援を行っている。実際、チラシやカードを学校や産婦人科、小児科、ドラッグストアの窓口や妊娠検査薬の近くに置いていただいている。妊娠や子育てについてどんなことでも悩みがあった時に電話をしていただく形で、色々な相談があるが、全て受けて対応し、必要があれば関係部署に繋ぐ。

⇒子ども未来課

子ども未来サポーターは、各区に配置した保育コーディネーターとの連絡会等で情報交換を行っている。各地域における子育て支援連絡会や保健福祉センターの主催事業へ参加をしている。広報活動として、子育て支援センター主催の講座に参加、他に民間が主催するイベント等にも参加している。そのほか、子ども未来サポーターだよりを作成し、センター等で配布を行っている。積極的に学所の行事や子育ての講座、あるいは、交流館での事業に参加して周知を行っている。

○今村委員（質問）

子ども未来サポーターは、平成26年度当初に清水中央をはじめ、支援センターに配置され、各保健福祉センターと連携して、子ども未来サポーター会議を定期的に行っている。子ども未来サポーターだよりを発行し、色々な場所に配布している。未来サポーター自体は、支援センターにおり、お母さん達から質問があったときに答えている。今は定期的に相談会や講座で未来サポーターを中心に、事前にお母さん達から質問を受けてそれに答えるという形で相談件数もかなり増えてきている。この利用者支援事業について、子ども未来サポーターと保育コーディネーターとはかなり連携しているが、子育て世代包括支援センターとは連携が出来ていなく課題だと思う。行政としてどのようにお考えか。

⇒子ども未来局長

保育コーディネーター、子ども未来サポーター、子育て世代包括支援センターは、同じ利用者支援事業だが、少しずつ役割が違う。保育コーディネーターは保育の利用について、希望の所に入れるまで寄り添って支援する。子ども未来サポーターは、新制度になって子ども子育てのサービスが質も量も過去に比べて飛躍的に増えた多数のメニューから、利用者がそれぞれの家庭の実情に合ったメニューを選べるようにするための道先案内人。そして、子育て世代包括支援センターは、妊娠、出産を中心として、きめ細かく支援をしていこうというもの。従って、保育コーディネーターと子育て世代包括支援センターは保育、妊娠、出産という所に軸足を置いたかなり専門的な支援。そして、子ども未来サポーターは、それらを全て網羅してそれぞれの家庭にあったサービス利用の方法を提案、助言するもの。これから数が増えていく中で、皆さんにどのように連携して、役割を十分果たしていけるか検討しながら、進めていけたらと思っている。

○徳浪委員（質問）

多様な主体の参入促進事業の中で、学生も乳児の施設に魅力があるということで小規模への就職希望者もかなりいる。たった1回では監査的な捉え方になってしまうと思う。学生も卒業してその場所に行ったときに、全く勉強する機会がなく、日々追われてしまうので、巡回支援の先生の指導が大変有効になるし、職員会議や子どもの見方等を教えていただけ

るのは、本当にありがたいと思う。さらに回数を増やし、0、1、2歳という弱い立場で、ものをあまり言えない子ども達を見ていただくのが将来その子どもたちにも影響するので、人数や回数を検討してほしい。

⇒子ども未来課

昨年度については、初年度ということで、ある程度、機会的に回数を割り当てた。個別の園で見ると、2年間で見ていこうというもの。状況により回数を変える等、柔軟に対応している。新規の施設も増えていくので、できるだけ適切な量にしていきたい。

○稲垣委員（質問）

事前調査会議では、実際に園が立ち上がったときにちゃんと出来ていたのかまで見ることはできない。それを見るのが訪問支援の先生達なのだろうと思った。それがもっと明確に公開されてくると、質の向上、職員に対しても利用者に対しても質が上がってくると思う。

⇒子ども未来課

事前調査会議で出していただいたご意見、ご指摘は、訪問する先生にもお伝えしている。その結果が事前調査会の委員の方にフィードバックというところまでは現時点ではいっていないため、今後考えていきたい。

○津富委員（意見）

この仕組みは事業ごとに異なると思うが、事業ごとの繋がりが見えるように説明いただくのも大事なのかと考える。もうひとつは、静岡市として目標を設定されているが全国的に出来ていないときも教えていただきたい。もう1点、平成27年度の進捗状況だが、議題として挙げるのが遅いので可能な限り年度の前半で行ってほしい。

■報告1 静岡市立こども園の配置適正化 第一次対象園について

○鈴木委員（質問）

毎年そういう園が出てくるということだが、廃止に関して意見は無かったと受け取ってよろしいか。

⇒子ども未来課

興津南こども園については、保護者の方に対して説明会を開催した。また、そのほかは、廃止ということが打ち出されたことによって、これから入ってくる子が少なくなるのではないかという声をいただいている。いかに廃園の日まで園を盛り上げていくか考えていた

だいている状況だと捉えている。それから第2次、第3次の対象園だが、まず、老朽化園を解消していきたいというのがひとつの目的であるので、個別の園の事情も考えて決めていきたいと思っている。

○浅井委員（質問）

新富町の説明会の話で、民営化するなら反対という話があったようで、私立保育園の代表として、私立の方が公立より下のように見る風潮があるのか、それとも別の理由なのか詳しく教えて欲しい。

⇒子ども未来課

市立でも私立でも基準を満たすのは最低限のことで、それ以上のことをきちんとやっていますと説明させていただいているが、保護者の中には、市立だから偉いというお考えをお持ちの方がいるのも事実。例えば、障がい児の受け入れの問題とか、職員が異動して変わる等の理由で、市立を選択した方が中にはいる。

○浅井委員（意見）

幼稚園も保育園もこども園も同じだと思うが、全く遜色ない保育をしているのは私達も自信を持っており、それぞれ特徴はあると思うので、その特徴が理由だったら仕方ないと思う。中には公立の方が、保育料が安いと思っている人がいる。誤解を解くにはいい機会と思うのでそういうこともお願いしたい。

○津富委員（質問）

先程、保護者の方に説明されたとあったが、地域の方には説明されたのか。

⇒子ども未来課

地元の自治会にも全てご説明させていただいて、その後、報道発表というような順序で進めている。

■報告2 「子育てしやすいまち静岡市」PR動画の作成について
(意見なし)

■報告3 「結婚・婚活アワード」自治体 市部門の表彰について

○戸崎委員（意見）

若年層への意識啓発ということで是非やっていただきたい。自分の家庭を想像するとうことがなかなか出来ないし、生まれた子どももどうやって育てたらいいかわからない。自

分の家庭を持つというところがなかなか発想できないようで、また結婚してから、社会に出るといふ事が本当に大変になるということ、若年層の意識啓発として積極的に行って欲しい。中学生や高校生に家庭の在り方、子育ての在り方、社会は変わってきているのでそういうことを勉強してほしい。

○鈴木委員（意見）

同じく若年層の意識啓発というところで、全体的に女性を対象にしていると感じるところがある。男性に対しての意識改革というのは必要ではないか。先ほどのワークライフバランスも男性の共通意識が無いと助けてもらえないという部分がすごくあるので検討いただきたい。

⇒青少年育成課

昨年は英和高校にお願いしたが、今年度は駿河総合の総合学習の中でやっていただくので、男女とも聞いていただく形になる。

○望月委員（意見）

男性が積極的でないという話もあったが、競争心がないように感じていて、社内でもちょっとしたきっかけがあれば話が進むのではないかと思う。料理はかなり性格が出るし、チームワークは良いものということがあるので、ちょっとしたきっかけを作って進めてもらえると良い。

○和田委員（意見）

私も少子化の問題と働き方改革をやっていて、まさに男性の意識改革を進めていかなければならないと思う。いただいた資料が結構役に立つのではないかと思う。

○永田委員（意見）

本当に男性の本能、意識改革が必要。子育てもそうだが、女性が社会に出て活躍していただくためには、男性がなるべく早く家に帰って家にいることも必要だと思う。時間外労働はかなり気にかけているのが、静岡市の職員もなるべく早く帰って家庭に貢献していただきたい。

■子ども子育てについて意見交換

○津富委員（意見）

本題の審議が優先だが、見識ある皆さんと時間がある時に意見交換をしたい。それを静岡市の今後役に立ててほしい。議論すべきトピックがあればぜひ議論したい。